

長岡工業高等専門学校 令和5年度 年度計画実績報告

令和5年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
(1) 入学者の確保 ①-1-1 公式ホームページの内容を点検し、中学生向け(保護者をも意識)のコンテンツの更新をはかるとともに英語での情報発信力の強化をはかる。 ①-1-2 市町村の中学校校長会や中学校への訪問活動を行うとともに、中学生と保護者向けの学校紹介資料を送付するなどの広報活動を行う。 ①-1-3 学内運営決定組織と連携し、社会や入試広報対象者に本校の歴史、教育機関としての魅力をアピールしていく。 ①-1-4 県外の本校志願者増を図るため、法人本部主催の国公立高専合同説明会2023に出展する。	①-1-1 学生の活躍を中心に最新の情報を迅速にホームページで公開した。英語での情報発信についても随時コンテンツの見直しをかけている。 ①-1-2 県内中学校236校中、中越地区を中心に137校を訪問し、本校の魅力や入試制度について説明した。これとは別に、県内117校の中学校に高校説明会オンデマンドコンテンツの配布を行うなどの広報活動を行った。 ①-1-3 オープンキャンパスに合わせて在校生が出演する動画、および中学生向け学科紹介動画など合わせて12本作製しリリースした。 ①-1-4 東京及び大阪で開催された合同説明会2023に校長、副校長が参加し、本校の魅力を存分にアピールした。	◎: 既に達成している	
①-2-1 広報戦略室と教務委員会が連携して学校説明会の日程を、6月、8月、10月等の複数回に分散化させて実施する。入学確保のための高専の魅力を伝える。 ①-2-2 本校主催のオープンキャンパスおよび入試説明会を企画・実施する。中学校で開催される学校説明会の参加要請には確実に応え、PR活動を行う。本校教員を小中学校等に派遣する出前授業も行うとともに、小中学校の校外実習や総合学習のための上級学校訪問も積極的に受け入れ、校内見学や体験授業の実施により小中学生に本校の魅力を伝えていく。	①-2-1 6月は高校説明会、8月はオープンキャンパス、10月は入試説明会を、広報戦略室と教務委員会が連携して実施した。 ①-2-2 8月11日、12日にオープンキャンパスを実施し、のべ約1300名の中学生及び保護者を受け入れた。寮見学や学科体験学習も複数選択できるシステムとした。また、中学校の参加要請に応える形で高校説明会29件を実施し、上級学校訪問は8件の受け入れを行った。入試広報に関しては、オープンキャンパスではホームページによる動画配信、入試説明会においては各地域に赴き、入試の概要を説明し、入学確保のための推薦制度による出願を促す活動を行った。	◎: 既に達成している	
②-1-1 ダイバーシティ推進室のホームページを活用するとともに、令和3年度にリニューアルした冊子を女子生徒や保護者に配布し、女子中学生への広報活動を進める。 ②-1-2 本校に適正を持つ女子中学生の獲得に向けて、女子中学生向けの進路相談会や科学体験・講演会を実施する。また、オープンキャンパスで女子中学生を対象としたブースを出展する。	②-1-1 女子生徒および保護者向けのホームページを開設している。令和3年度に改訂した「長岡高専ガール」をオープンキャンパスや出前授業で配布し、広報活動を進めた。 ②-1-2 ナガオカエンジニアガールズの組織を活用して、オープンキャンパスにて女子中学生を対象としたブースを出展した。学園祭ではポスター掲示および工作教室を実施し、児童、生徒、保護者100名程度が参加した。また、女子中学生限定出前授業を9月2日(土)に開催し、5名が参加した。Waffle Campホームタウン in 長岡(主催:NPO法人Waffle、共済:長岡市・長岡技術科学大学・本校)を11月23日(祝)に開催し、計8名の女子中高生が参加した。	◎: 既に達成している	
②-2-1 海外との交流活動は随時ホームページに掲載するとともに、適宜SNS等を活用する。 ②-2-2 公式ホームページの英語版の内容を点検し、コンテンツの更新と充実をはかる。英語版の学校紹介動画コンテンツやプレゼンテーション資料の活用をはかる。	②-2-1 海外との交流活動は随時ホームページに掲載した。引き続き継続する。 ②-2-2 学生目線の学校紹介動画コンテンツを作製した。英語版に翻訳し、本校に留学する学生にも見てもらえるよう英語板ホームページでも公開した。	◎: 既に達成している	

長岡工業高等専門学校 令和5年度 年度計画実績報告

令和5年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
③ web出願システムのより安定的な運用に向け、PDCAサイクルを確立させる。社会の変化と要請に応じてアドミッションポリシーを適宜見直すとともに、より意欲と資質の高い入学者を確保するため、入試の選抜方法と選抜基準を改善する。また、受験生の負担軽減と利便性に繋がる「最寄り地受験」制度の定着を図るとともに、学力検査における「複数校志望受験制度」の推進についても他高専との連携を検討する。	③ web出願制度も昨年度の第1学年推薦、学力入試、第4学年編入学入試等で実績を積み、広報戦略室長とも連携し、中学校教員からのリクエストに応じたweb出願システムの構築と確立にむけた協力体制を実現し、安定的な運用が実現できている。最寄り地受験も一昨年度から昨年度にむけて増加し、入試説明会でも最寄り地等受験の説明をし、当該制度の普及に努めた。	◎:既に達成している	
(2)教育課程の編成等 ①-1-1 社会の変化と要請に柔軟に対応できる学科横断型カリキュラムの構築、また、必要に応じて学科の一部再編についても検討する。長岡地域の高等教育機関とも連携し、地域に根ざした多様な教育プログラムの継続と拡充を行う。 ①-1-2 専攻科における連携教育やダブルディグリープログラムなど様々な教育プログラムに適応した4学期制カリキュラムの改善を行う。	①-1-1 社会の要請にあわせ、企業から講師を招聘する技術科学フロンティア概論を起業家育成に特化したアントレプレナー論に、また、低学年では実施されていなかったジェネリックスキル(MCCにおけるモデル)科目を新設することととともに、従来から行っている学科横断型AI教育の継続、長岡高専の地域企業と連携した企業説明会を実施するなど、多様な教育プログラムの展開と発展につとめた。 ①-1-2 専攻科委員会において、令和6年度に向けたカリキュラムの確認と必要に応じて対応を行い、9月に学位授与機構へ届出済み。	◎:既に達成している	
①-2-1 長岡高専専攻科・長岡技術科学大学の連携による連携教育プログラムの履修者及び履修希望者のいる専攻・課程を優先的にカリキュラムの対応・構築を進める。 ①-2-2 ・長岡高専技術協力会(約320社以上)、地域企業と連携した課題解決型教育プログラム(JSCOOP)を実施する。そのため、地域企業との教育・研究活動をさらに活性化するため、技術協力会への入会企業の獲得に努めるとともに、地域企業を知る機会として、インターンシップ説明会や企業ガイダンスを実施する。 ・事業創造といった社会ニーズに対応するために、学内のモノづくりスペースを見直すなどして学生の主体性を育む教育環境を整備し、担当教員のFD研修を進めるなどして、スタートアップ教育の高度化を図る。	①-2-1 長岡高専専攻科・長岡技術科学大学の連携による連携教育プログラムに今年度1名が入学し、電子機械システム工学専攻(電気電子システム工学科出身)-長岡技術科学大学電気電子情報工学課程の連携教育カリキュラムに基づいて履修支援を行った。また連携教育プログラムのPRとして、本科4年生向けに、9月の保護者会での資料配布を行うとともに、進路ガイダンス(令和6年1月18日)において連携教育プログラムの説明を行った。 ①-2-2 ・長岡高専技術協力会(約320社以上)、地域企業と連携した課題解決型教育プログラム(JSCOOP)を実施している。 地域企業との教育・研究活動をさらに活性化するため、技術協力会への入会企業の獲得に努め、地域企業を知る機会として、インターンシップ説明会を5月に実施した。企業ガイダンスは12月に実施した。 ・令和4年度文部科学省補正予算高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業の採択を受け、事業計画に沿って実施した。	◎:既に達成している	
②-1-1 フィンランドのトゥルク応用科学大学とのダブルディグリープログラムへの学生の派遣体制の構築を進める。 ②-1-2 海外協定校との連携により、「トビタテ! 留学JAPAN」やJASSO支援等を積極的に活用し、学生の海外留学を推進する。	②-1-1 フィンランドのトゥルク応用科学大学(TUAS)とのダブルディグリープログラムへの派遣に向けた本プログラムのPRとして、本科4年生向けに、9月の保護者会での資料配布を行うとともに、進路ガイダンス(令和6年1月18日)においてTUASとのダブルディグリープログラムの説明を行った。 ②-1-2 学生に向けて、トビタテ! 留学JAPAN 新・日本代表プログラムについて、周知を行った。JASSO協定派遣・協定受入のプログラムを2件申請した。	◎:既に達成している	

長岡工業高等専門学校 令和5年度 年度計画実績報告

令和5年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
②-2 学生の英語基礎力だけでなく思考力、実践力および挑戦力を段階的・多角的に育成するために、全学的協働体制の下、協定校や法人本部と連携し、グローバルエンジニア育成事業に採択された2つのプログラム「Nagaoka CO-CORE Vision」に基づく低学年からのグローバル人材育成」(本科1～3年対象)および「Nagaoka CO-CORE Vision」に基づく実践力を備えたグローバル人材の育成」(本科4年～専攻科2年対象)を推進する。	②-2 グローバルエンジニア育成事業では、様々な面で学生の支援を行っている。特筆すべきことは、1学年から4学年まで、デザイン思考をベースにしたHand-onベースの英語授業を外国人講師がチームティーチングで実施し、学生の英語力だけでなく、思考力・協働力の育成を行った。今年度で4年目の実施となり、本校4年生は4年目の取り組みとなる。各年度末には、英語力、協働力、思考力、創造力が身についたかの振り返り調査を行うが、どの学年においても9割以上の学生がそれぞれの力を身についた実感を抱いている。GE事業では工学の学位(博士)を取得した外国人講師を採用し、学生の教育に当たさせた。うち一名は、パーマネントの常勤講師として勤務した。本科の卒業研究発表も英語で行う学生が表れている。専攻科生向けの開講科目であるグローバルディベートや、特別研究発表(英語)の指導においても一助となった。	◎:既に達成している	学習に対するモチベーションの安定化、さらには学生自身の将来の進路に対するキャリアパスを意識させる必要性がある。 COVID-19後、慎重になりすぎている学生が多いのか、さらに多くの学生に海外での経験を積ませたい。
③-1-1 全国高等専門学校体育大会や全国高等専門学校ロボットコンテストなど各種コンテストへの積極的な参加を支援する。 ③-1-2 大会等で顕著な成績をあげた学生に対して表彰を行う。	③-1 高専大会、各種コンテストに多くの部が参加した。優秀な成績を収めた部に対しては始業式で表彰を行った。	◎:既に達成している	
③-2 ボランティア活動への参加を推奨するとともに、顕著な活動を行った学生及び学生団体の顕彰を行う。	③-2 善行賞該当者がおり、卒業式での学生表彰式で表彰を行った。	◎:既に達成している	
③-3 学生に「トビタテ! 留学JAPAN」やJASSO支援の制度等を積極的に紹介し、学生の海外留学を促進する。	③-3 学生に向けて、トビタテ! 留学JAPAN 新・日本代表プログラムについて、周知を行った。JASSO協定派遣・協定受入のプログラムを2件申請した。	◎:既に達成している	
(3)多様かつ優れた教員の確保 ①-1 多様な背景を持つ教員組織とするため、教員採用の公募制を継続する。採用された学校以外の高等専門学校や大学、高等学校、民間企業、研究機関などにおいて過去に勤務した経験を持つ者、又は1年以上の長期にわたって海外で研究や経済協力に従事した経験を持つ者を幅広く採用する。 ①-2 教員採用においては、専門科目及び理系一般科目については博士の学位や技術士を有する者、理系以外の一般科目については修士以上の学位を有する者を公募により採用する。専任教員のうち、この要件を満たす教員の比率を、専門科目及び理系一般科目担当の教員について90%、理系以外の一般科目担当の教員については85%を下回らないようにする。	①-1 教員採用の公募制を継続している。大学博士課程在学中に企業や研究機関等と社会と幅広く連携した活動実績を持つ者を採用した。今年度教員公募を実施し採用者が決定した3名のうち、2名については他機関勤務経験を持つ者であった。 ①-2 専門科目(理系一般科目)担当教員について、博士の学位や技術士を有する者の割合は96.6%である。 理系以外の一般科目の教員について、修士以上の学位を有する者の割合は100%である。	◎:既に達成している	
② 社会人向け生涯教育(リカレント)事業をはじめ、高専と連携企業間の教育と研究、さらには大学等との連携を進め、クロスアポイントメント制度導入の支援体制を確立し、実施を推進する。リカレントに関して助教1名を継続する。	② リカレント事業に関して、クロスアポイントメント制度を適用し助教1名を雇用していたが、財源となる補助金の不足により、8月31日付けでクロスアポイントメント協定を解約した。これにより、現在クロスアポイントメント制度適用教員は不在となっている。	×:年度末時点で達成できない	教員人員枠内でのクロスアポイントメントについては、派遣・受入双方において、所属学科の負担増となることが多く、限られた人員の中で制度を運用していくための支援体制整備が引き続き課題として残っている。
③ 定期的にライフステージに応じた懇談会の開催やアンケートを実施し、職場環境に関する情報共有や改善提案の収集に努める。また、ダイバーシティ事業を活用し、女性教員の働きやすい環境整備を継続的に進める。	③ 懇談会を12月11日および14日に実施し、延べ18名が参加してワークライフバランスについて意見や解決策を提案した。JSTダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)本事業の取組にて相談員の配置(長岡技科大との共同利用)、研究補助員制度、ライフイベント復帰支援制度を構築し、運用している。	◎:既に達成している	

長岡工業高等専門学校 令和5年度 年度計画実績報告

令和5年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
④ 学内における多文化共生(ダイバーシティ)の取組を推進し、様々な文化的背景を持つ多様な人材(例えば外国籍人材など)が公募に応じやすくなるような環境を整える。	④ 多文化共生(ダイバーシティ)の取組を推進し、様々な文化的背景を持つ多様な人材が公募に応じやすくなるような環境を整えている。	◎:既に達成している	
⑤ 長岡技術科学大学及び豊橋技術科学大学との連携を図りつつ、国立高等専門学校・両技術科学大学間の教員人事交流の実施を検討する。また、国立高等専門学校間の教員人事交流についても、可能な範囲で実施を検討する。	⑤ 教員の人事交流について希望が出なかった。	×:年度末時点で達成できない	近年、校務が増加傾向であり、不在時の非常勤講師の確保や所属学科の負担が増えてしまうため、人事交流等の希望を出しにくい環境である。
⑥ 学校の枠を超えた情報収集、情報交換を目的として、昨年度に引き続き「他高専の事例に学ぶFD・SD研修会」を企画・開催する。また、教職員の能力向上を目的として、教学マネジメント、働き方改革等に資する研修会を企画・開催する。	⑥「他高専の事例に学ぶFD・SD研修会」として、7/26阿南高専・宇部高専、8/22函館高専、9/12仙台高専教員をお迎えして、キャリア教育、国際交流、アントレプレナーシップ教育等各校の特色ある取り組みについて情報交換を行った。また、コーチングスキルと活用、アンガーマネジメントなどをテーマとしたオンデマンドと対面形式を融合した全学的FDSD研修会を実施し、81%の受講率となった。対面のみの研修と比較し、大幅に受講率が向上した。	◎:既に達成している	
⑦ 教務主事や学生主事らによる推薦を経て、全学的な事業や教育改革等に貢献した教員や教員グループを教員表彰制度により表彰する。	⑦ 外部資金を獲得した教員への研究推進教員制度、年度末に主事等の推薦で行われる学内表彰制度に加え、FD活動に貢献した教員へFD得点を公開する制度など事業や教育改革に貢献した教職員への奨励表彰策を継続して実施している。	◎:既に達成している	
(4) 教育の質の向上及び改善 ① ディプロマポリシーに基づき、次期モデルコアカリキュラムに対応する新カリキュラムを検討することで教育の実質化を更に進めるとともに、教育実践のPDCAサイクルを機能、定着させるフローを活用した教育改善を進める。また、教育内容の豊富化を図る具体的な手段として、令和3年度に整備したバーチャルキャンパスを活用し、外部講師を招聘した授業や、降雪時における遠隔授業においても、双方向性のコミュニケーションを可能とするなど、多様な学びの機会を学生に提供する。教育指導の質の向上を図るために、昨年度定めた数理データサイエンス・AIスキル、課題解決型授業スキルの尺度を活用した全学的なFDを実施するとともに、「他高専の事例に学ぶFD・SD研修会」を開催し、高専間の好事例の共有を促進する。	①令和5年度版MCCIに対応する新カリキュラムについて、各学科、キャリア教育科目担当、MDA担当を中心に検討が進められ、決定した。 バーチャルキャンパスの学内外の利用促進についての検討を行った。 今年度実施した数理データサイエンス・AIスキル、課題解決型授業スキルの取りまとめ結果を、後期に開催するFD研修の企画に反映した。	◎:既に達成している	
② 令和3年度の機関別認証評価結果を受けて、課題等の改善と継続的な自己点検を行い教育・研究の質の向上に努める。 また、モデルコアカリキュラムに基づく質保証の仕組みとして、アセスメントプラン、データ分析体制、教学マネジメント体制を活用した教育改善を推進する。 令和4年度「国立高専教育国際標準(KIS)」トライアル受診の評価結果を受けて、課題等の改善と継続的な自己点検を行い、長岡高専全体の輩出人材像について、インナーブランディング手法を用いて学内で議論の上定める。	② 令和3年度「機関別認証評価」で示された課題等を改善している。継続的な自己点検を行い教育・研究の質の向上に努めている。質保証として、アセスメントプラン、データ分析体制、教学マネジメント体制を活用した教育改善を推進している。 令和4年度「国立高専教育国際標準(KIS)」の評価で示された課題を改善している。継続的な自己点検を行いながら優れた人材輩出のための方策を決めている。 教学マネジメント体制を活用したアセスメントプランに基づくデータ収集及びデータベースへのデータ格納を行い、先行分析結果について、教学企画部会へ報告した。 長岡高専全体の輩出人材像について議論し、規程に明文化した。	◎:既に達成している	

長岡工業高等専門学校 令和5年度 年度計画実績報告

令和5年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
③-1-1 地域や産業界が直面する課題解決を目指した課題解決型学習(PBL (Project-Based Learning))の典型例として本校のJSCOOPを継続的に推進する。具体的には、これまでJSCOOPに協力する地域企業は建設関係の企業が多かったが、本年度は本校技術協力会と連携し、建設業以外の業界からのJSCOOPへの参画をより一層促進し、学生が取り組む課題の多様化を図る。 ③-1-2 地域の理工系人材の早期発掘、育成の好事例とするため、見附市立葛巻小学校と連携してプログラミング教材を開発、実践することで、同小学校のSTEAM教育支援を行う。また現在、本校低学年で実践しているクリティカルシンキング、デザインシンキングを取り入れた英語授業や、AIR Tech(AI、IoT、ロボット)リテラシー教育を基に、STEAM教育の高度化を狙った本校・新カリキュラムを検討する。	③-1-1 本年度のJSCOOPで学生が取り組む課題は11課題中、4課題が建設業界以外からの課題であり、学生が取り組む課題の多様化が進んだ。 ③-1-2 地域の理工系人材の早期発掘、育成の好事例とするため、見附市立葛巻小学校と連携してプログラミング教材を開発、実践することで、同小学校のSTEAM教育支援を行っている。 クリティカルシンキング、デザインシンキングを取り入れた英語授業や、AIR Tech(AI、IoT、ロボット)リテラシー教育を基に、STEAM教育の高度化を狙った本校・新カリキュラムを検討した。	◎:既に達成している	
③-2 企業と連携した教育コンテンツの開発を推進しつつ、インターンシップ等の共同教育を実施する。	③-2 ・地域産業と技術の理解を目的として、学生が企業訪問と取材をとおり企業のPR原稿作成を実施した。また、地域企業が抱える問題を学科・専攻科横断の混成チームで解決する課題解決プログラムを地域企業と連携し実施している。	◎:既に達成している	JSCOOP課題解決プログラムにおいて、エキスパートコースの専攻科受講生の確保が課題。
③-3 情報セキュリティと情報教育に関する学内組織を充実させると共に、法人本部の開発したカリキュラムや教材を活用した教育実践ができるよう情報セキュリティ関連の学内組織との情報共有を行う。	③-3 情報セキュリティに関する学内組織を作り、情報危機管理に関する意識改革と情報共有を行い、当該組織から全教員への情報共有を進めている。また、教員会議等で情報セキュリティに関する注意喚起も定期的に行っている。	◎:既に達成している	
④ 長岡技術科学大学をはじめとする市内4大学、長岡商工会議所、長岡市とで2017年に設立したNaDeC構想に関するコンソーシアム推進会議、運営委員会等を定期的に開催し、協働教育等の有機的な連携を更に推進する。市内4大学1高専間で、2021.3.24に締結した単位互換協定に基づき、eラーニング等を活用した教養科目や専門科目の更なる充実に向けて検討を進める。	④ NaDeCコンソーシアムの新たな活動拠点として7月に先行オープンした「米百俵プレイスミライエ長岡」を会場として、8月21日(月)～8月25日(金)に、本校学生12名と長岡造形大学学生14名により、ミズを活用した持続可能性社会の提案と実装をテーマとした「アントレプレナーシップ演習Ⅰ」を開催した。長岡高専のテクノロジー×長岡造形大学のデザイン思考だけでなく、金融や事業プランの洗練についても各分野の専門家から学び、長岡造形大学の学生との交流を通じて異分野融合による思考力、発想力を醸成し、アントレプレナーシップの養成に繋げた。	◎:既に達成している	
(5)学生支援・生活支援等 ①-1 カウンセラーの配置の充実を図るとともに、ソーシャルワーカーや特別教育支援士等の専門職の配置を推進する。 ①-2 学生相談室を核として、障害を有する学生への支援を含めた学生指導に関して校内研修会を実施する。	①-1 カウンセラー2名とキャリアコーディネーター1名を配置し、学生の支援を行っている。 ①-2 3月に障がい有する学生指導に関する研修会を実施した。	◎:既に達成している	
② 高等教育の教育費負担軽減に伴う奨学金制度については、法人本部との情報共有を推進する。また、ホームページ及び刊行物等で広く保護者等にも通知する。	② 高等教育の教育費負担軽減に伴う奨学金制度について、ホームページ、Teams、保護者向けメール及び郵便物等広く保護者等に案内した。	◎:既に達成している	

長岡工業高等専門学校 令和5年度 年度計画実績報告

令和5年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
③-1 長岡高専入学から卒業までを一貫した手引書「キャリアガイド」を配布する。その「キャリアガイド」とキャリア支援システム「みらいテラス」を基にしたポートフォリオ教育を推進し、学内で共有化することでキャリア支援体制の充実を図る。その成果を今後継続的に測るため、PROGテストを、第1、3、5学年、専攻科第2学年を対象に引き続き実施する。 卒業・修了時アンケートにキャリア支援も含めた満足度項目を追加し、教育改善に活用する。 ③-2 低学年からのキャリア教育の一環として、第3学年向けのダイバーシティ講演会、女子学生向けのロールモデル講演会・茶話会などを開催する。	③-1 長岡高専入学から卒業までを一貫した手引書「キャリアガイド」の配布を検討しており、キャリア支援システム「みらいテラス」を活用したポートフォリオ教育を実践している。教育効果を測るため、PROGテストを、学科第1、3、5学年、専攻科第2学年を対象に実施した。今後も卒業・修了時アンケート項目の見直しを進め、キャリア支援を含めた満足度を調査し、教育改善に活用する。 ③-2 第3学年向けのダイバーシティ講演会は11月16日に開催した。また、女子学生向けのロールモデル講演会を12月13日に開催し、女子学生への参加を促した。	◎:既に達成している	
1. 2 社会連携に関する事項 ①-1 広報資料の作成や「国立高専研究情報ポータル」等のホームページの充実などにより、教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を発信する。 ①-2 R4に作成した企業の技術シーズ集の拡充を図る。 ①-3 教員プロフィール集の拡充を図る。 ①-4研究成果の社会実装に向けた研究活動等の広報についてプレスリリースの拡充を図る。	①-1 HPに教員プロフィール集(web新規様式)を掲載した。教員の研究分野や共同研究・受託研究の成果などの情報を発信を行った。 ①-2 令和5年技術協力会シーズ集(Web掲載)の掲載企業を募集し、年度内に完成した。 ①-3 昨年度版からデザインを一新し、長岡高専の紹介、産学連携について、就職関連情報ページ等を追加した、2023教員プロフィール集を作成した。 ①-4 機構のプレスリリース研修を受講し、プレスリリースの拡充へ向けて体制を整えた。	◎:既に達成している	
②-1 技術協力会から活動資金を得てコーディネーターを雇用する。コーディネーターが中心となり、地域企業や自治体等のニーズ及び教員シーズを把握し、技術相談、受託研究、共同研究活動をより一層促進する。 ②-2 コーディネーターを中心に高専間連携のより一層の緊密化を図るとともに昨年度試行的に実施したMatching HUB Nagaoka を本年度も開催し、共同研究、受託研究の受け入れを促進する。	②-1 コーディネーターが中心となり、産学連携を推進し、その活動が高く評価され、本年度の長岡高専の技術協力会への新規入会は現時点で82社となり、法人会員企業数は378社となった。 ②-2 Matching HUB Nagaokaでも出展し、共同研究、受託研究の受け入れを促進した。	◎:既に達成している	
③-1 令和4年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点と開催の必要性などから総合的に判断して中止したが、令和5年度は報道機関のニーズを聞きながら令和元年度のような「記者懇談会」の企画・開催を検討する。	③-1 現時点で「記者懇談会」の開催はニーズがないが、今後も引き続き、開催の必要性・ニーズを確認・検討していく。	◎:既に達成している	「記者懇談会」の開催はニーズがなかったが、今後も開催の必要性や・ニーズを確認しながら検討は進める。
③-2 これまでと同様に、大きなイベントや学生・教職員の目覚ましい活躍などについては本校Webサイトに記事を掲載するとともに、程度・必要に応じ積極的にプレスリリースを行う。また、動画を積極的に活用するなど広報手段の改善を図ると共に本校が関係する報道情報収集に努め、新聞やテレビ等のメディアに記事掲載等のあった際は、報道内容及び報道状況について随時法人本部に報告を行う。	③-2 4月以降から現時点まで、地域連携活動や学生活動、学校行事、国際交流等に関する記事を本校Webサイトにおおよそ合計100件程度掲載した。また、プレスリリースは3件行っている。なお、本校が関係している事業で本校以外の公官庁等からプレスリリースを行う場合もあった。 本校に係るメディア掲載・放送等については、情報の集約には努め、法人本部への報告を行った。	◎:既に達成している	
1. 3 国際交流等に関する事項 ①-1 マレーシア在日本国大使館やJICAマレーシア事務所との組織的・戦略的な連携の下に、マレーシア政府人的資源省傘下のJMTI及びADTCE校の支援に取り組む。	①-1 令和5年9月初旬、学生9名を引率してADTEC Melakaを訪問し、ものづくり学生交流を行った。さくらサイエンスプログラムを利用してADTEC Melakaの学生7名と教員1名を令和6年2月下旬に長岡高専に招聘した。	◎:既に達成している	

長岡工業高等専門学校 令和5年度 年度計画実績報告

令和5年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
①-2 モンゴル3高専の支援を継続して行う。	①-2 モンゴルのMUST付属高専と令和5年10月にMOUを締結した。モンゴル3高専の電気系教員を令和6年1月に長岡高専で2週間受け入れ、教員指導を行った。	◎:既に達成している	
①-3 タイ高専の支援を継続して行う。	①-3 タイKOSENの支援として、次年度派遣予定教員への授業指導を行った。また小山高専で実施されたKOSEN-KMITL3年生の1か月研修に参加し、指導を行った。	◎:既に達成している	
①-4 モンゴル3高専の支援とタイ高専支援の経験を生かして、適切な助言を行う。	①-4 高専機構本部から助言を求められたら、いつでも対応できる状態にある。	×:年度末時点で達成できない	現在ベトナムとの接点が無い。
①-5 諸外国の政府関係者、教職員の訪問を積極的に受け入れて、「KOSEN」の教育制度の紹介に努める。	①-5 令和5年度10月にバンコク・クリスチャン・カレッジの教職員15名の訪問を受け入れ、長岡高専の総務・教務、そして特色ある教育の紹介を行った。	◎:既に達成している	
② 本校で取り組んでいるモンゴル3高専支援活動とタイ高専支援活動を通じ、校内における教職員・学生の国際化を進めていく。	② 学生海外派遣研修の引率を教員・技術職員・事務職員に担当してもらい、海外の経験を積んでもらっている。学内の教職員向けにオンライン英会話の受講を勧めている。	◎:既に達成している	
③-1-1 協定校であるトゥルク応用科学大学(フィンランド)とのダブルディグリー制度の派遣受け入れ体制の構築を進める。 ③-1-2 海外協定校を活用して、学生の海外留学を推進する。	③-1-1 フィンランドのトゥルク応用科学大学(TUAS)とのダブルディグリープログラム協定に基づいてTUAS学生を8月から3名受入れ、履修計画を作成し、履修指導を行っている。9月29日に行われた令和5年度後期授業ガイダンスにおいて、全学にTUASからの学生3名を紹介するとともに、同日午後に専攻科特別実験Ⅰの報告会を実施するなど、履修指導を行った。 ③-1-2 学生に向けて、トビタテ！留学JAPAN 新・日本代表プログラムについて、周知を行った。JASSO協定派遣・協定受入のプログラムを2件申請した。	◎:既に達成している	
③-2 学生の英語基礎力だけでなく思考力、実践力および挑戦力を段階的・多角的に育成するために全学的協働体制の下、協定校や法人本部と連携し、グローバルエンジニア育成事業に採択された2つのプログラム「Nagaoka CO-CORE Visionに基づく低学年からのグローバル人財育成」(本科1～3年対象)および「Nagaoka CO-CORE Visionに基づく実践力を備えたグローバル人財の育成」(本科4年～専攻科2年対象)を推進する。	③-2 グローバルエンジニア育成事業では、様々な面で学生の支援を行っている。特筆すべきことは、1学年から4学年まで、デザイン思考をベースにしたHand-onベースの英語授業を外国人講師がチームティーチングで実施し、学生の英語力だけでなく、思考力・協働力の育成を行った。今年度で4年目の実施となり、本校4年生は4年目の取り組みとなる。各年度末には、英語力、協働力、思考力、創造力が身についたかの振り返り調査を行うが、どの学年においても9割以上の学生がそれぞれの力を身についた実感を抱いている。GE事業では工学の学位(博士)を取得した外国人講師を採用し、学生の教育に当たさせた。うち一名は、パーマネントの常勤講師として勤務した。本科の卒業研究発表も英語で行う学生が表れている。専攻科生向けの開講科目であるグローバルディベートや、特別研究発表(英語)の指導においても一助となった。	◎:既に達成している	学習に対するモチベーションの安定化、さらには学生自身の将来の進路に対するキャリアパスを意識させる必要性がある。 COVID-19後、慎重になりすぎている学生が多いのか、さらに多くの学生に海外での経験を積ませたい。

長岡工業高等専門学校 令和5年度 年度計画実績報告

令和5年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
③-3 学生に「トビタテ！留学JAPAN」の制度やJASSO支援事業等を積極的に紹介し、学生の海外留学を促進する。	③-3 学生に向けて、トビタテ！留学JAPAN 新・日本代表プログラムについて、周知を行った。JASSO協定派遣・協定受入のプログラムを2件申請した。	◎:既に達成している	
④-1 国際交流推進センターとの連携を強化し、公式ホームページの英語版の内容を点検し、本校が取り組む次世代人材育成プログラムに関するコンテンツの更新と充実を図る。英語版の学校紹介動画コンテンツやプレゼンテーション資料の活用を図る。	④-1 次世代人材育成プログラムに関するコンテンツの確認を継続する。必要に応じて随時改訂する。今年度は、英語版の学生目線の学校紹介動画コンテンツを作製し、ホームページ上で公開した。	◎:既に達成している	次世代人材育成プログラムに関するどのようなコンテンツにするか、次年度も引き続き審議する。 英語版学校紹介動画は、2年に1回のペースで更新(次回は令和6年度改定予定)
④-2 チュラポーン王女サイエンスハイスクールの中学部を卒業した学生の受け入れを継続して行う。また、タイ高専からの編入があった場合はタイ人留学生をしっかりとサポートしていく。	④-2 チュラポーンからの留学生は今年度も2名受け入れ、タイ高専からの留学生は、今年度は1名受け入れた。チューターによるサポートもあり、日本の生活やクラスにも慣れている。	◎:既に達成している	タイ高専留学生への教育支援が必要(日本語含む)。
⑤ 東京出入国在留管理局に対する留学生在籍者報告を遅滞無く行い、その際本学に在籍する留学生の在籍状況・資格外活動取得状況を把握する。	⑤ 新規受入及び定例5月の東京出入国在留管理局に対する留学生在籍者報告時に留学生の在籍状況を把握し、遅滞無く行った。 定例の11月にも遅滞無く行い、その際に留学生の在籍状況・資格外活動取得状況を把握した。	◎:既に達成している	
2. 業務運営の効率化に関する事項 2. 1 一般管理費等の効率化 一般管理費の縮減に必要な業務運営の見直し、光熱水量などの縮減及び業務の効率化の推進を図る。	2. 1 一般管理費等の縮減については、令和5年度予算の所要額調べの際に「継続して実施してきた事項についても見直しを行い、廃止や縮小の検討を行う」旨依頼して、真に必要な事業経費の申告を促したうえで、校長・事務部長と各センター及び各係でのヒアリング(4月25日～5月12日)を実施し、予算計画を策定することで適正かつ効率的に一般管理費の縮減に必要な業務運営の見直し、経費の削減を図った。 また、光熱費高騰に伴う省エネの徹底について、7月12日開催の第4回企画運営会議において、「電気・ガス使用量の抑制のための具体行動」について了承され、改めて省エネの徹底を依頼した。	◎:既に達成している	
2. 2 給与水準の適正化 ※該当なし		該当なし	
2. 3 契約の適正化 契約は計画的に行うこととし、原則として一般競争入札等によることとする。また、法人本部作成の「契約事務等の取扱について」などを活用し、契約内容の競争性、透明性の確保に努める。	2. 3 契約は計画的に実施し、原則として一般競争入札等により実施している。また、機構作成の「契約事務等の取扱について」を活用し、契約内容の競争性、透明性の確保に努めた。引き続き、適正化を図る。	◎:既に達成している	

長岡工業高等専門学校 令和5年度 年度計画実績報告

令和5年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画 3. 1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 教育研究機能の強化に資する取り組みを重点に推進するため、予算編成にかかる基本方針を定め、予算の効率的かつ効果的な学内配分を行う。	3. 1 予算編成及び執行にあたり、4月19日開催の企画運営会議において、「令和5年度予算編成に係る基本方針」等策定し、本方針に基づき、令和5年度予算配分を行った。 各予算科目の配分にあたり、所要見込額について校長・事務部長と各センター及び各係(4月25日～5月12日)でヒアリングを実施し、効率的かつ効果的な予算配分を行った。	◎:既に達成している	
3. 2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加 3. 2-1 ・科研費等の競争的外部資金獲得を目的とした講習会等を実施する。 ・地域創生教育研究室がコーディネーターと協働し、国や県の補助金を積極的に活用し、受託研究や共同研究の実績増に繋げる。 ・本校技術協力会と緊密な連携を図り、会員企業数を増やし、本校の教育研究活動資金の獲得に繋げる。 ・教員の研究活動に従事できる時間の確保について検討を行う。 ・大型外部資金を獲得した教員の支援体制について検討する。 3. 2-2 令和4年度に寄附増進方策として実施した本校ホームページの寄附金案内ページについて、寄附金による活動の成果がわかるような実績の掲載を検討する。また、申込み方法、決済方法等の見直しを検討し、寄附者にとってより寄附を行いやすい仕組みとなるよう改善を図る。	3. 2-1 ・科研費等の競争的外部資金獲得を目的とした講習会を実施した。 ・地域創生教育研究室がコーディネーターと協働し、国や県の補助金を積極的に活用し、受託研究や共同研究の実績増に繋がった(NEDOスタートアップ採択等)。 ・R4年度末の技術協力会の会員企業数は296社だったが、現時点で378社まで増加した。 ・教員の研究活動に従事できる時間の確保について、研修会を開催し、事務補佐員・技術補佐員の雇用を促進した。 ・大型外部資金(1件1000万円以上)を獲得した教員の校務負担軽減を行った。 3. 2-2 寄附金による活動実績として、事業報告書の掲載を検討している。また、申込み方法、決済方法等については引き続き見直しを行っていく。	◎:既に達成している	
3. 3 予算 該当なし		該当なし	
3. 4 収支計画 該当なし		該当なし	
3. 5 資金計画 該当なし		該当なし	
4. 短期借入金の限度額 4. 1 短期借入金の限度額 ※該当なし 4. 2 想定される理由 ※該当なし		該当なし	
5. 不要財産の処分に関する計画 該当なし		該当なし	

長岡工業高等専門学校 令和5年度 年度計画実績報告

令和5年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
6. 重要な財産の譲渡に関する計画 該当なし		該当なし	
7. 剰余金の使途 該当なし		該当なし	
8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項 8. 1 施設及び設備に関する計画 ①-1-1「国立高等専門学校機構施設整備5か年計画」等に基づき、建物の改修計画を立て、給排水、電気・ガス等の基盤設備の適切な整備計画を盛り込む。	①-1-1 教育施設整備計画の見直しを行い、5号館改修を継続して予算要求を行った。	◎:既に達成している	
8.1 ①-2 6号館外壁タイルの劣化状況調査の実施を検討する。	①-2 打診診断専門業者より、詳細な外壁打診診断の見積を徴取した。	×:年度末時点で達成できない	歩行者が通る2面の外壁打診診断を早急に行い、設置済みの安全措置を撤去して通行可能とする必要がある。
② 法人本部より提供される「実験実習安全必携」の電子データを製本して学生に配付し、その内容について把握するよう指導する。	② 新入生に「実験実習安全必携」の冊子を配付した。第1回教務委員会において、授業における「実験実習安全必携」の活用のための学生指導を依頼した。	◎:既に達成している	
③ 科学技術分野への男女共同参画を推進するため、女子学生の利用する更衣室等のリニューアルなど、就学・就業上の環境整備について、校内に照会した結果を踏まえ、実施可能なものから順次実施する。	③ 今年度中に検討を行い、実施可能なものから整備を行う予定である。	×:年度末時点で達成できない	個別施設計画を見直しする必要がある。
8. 2 人事に関する計画 ① 教職員ともに積極的に人事交流を進め多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し資質の向上を図る。	①常勤職員の人事交流として、長岡技術科学大学と1名の相互交流を行っている。令和5年10月に長岡技術科学大学との交流者1名が復帰し、今後の活躍が期待される。 教職員対象に社会人向け生涯教育(リカレント教育)講座を企画、実施した。 教職員向けオンライン英会話レッスンを令和5年11月から令和6年1月まで実施した。	◎:既に達成している	
② 法人本部との併任者、海外高専との連携者等において法人本部との人事交流の回数と人数を増やし、積極的な交流を推進する。	② 法人本部との併任者は2名在籍している。積極的な交流を推進しており、本部との連携も継続している。	◎:既に達成している	
③ 教授等の上位職ポストの利用、学科に依存しない全学的な教員ポストの運用、などにより優秀な若手教員を確保する。	③ 学科に依存しない全学的な教員ポストの運用により優秀な若手教員を確保している。	◎:既に達成している	

長岡工業高等専門学校 令和5年度 年度計画実績報告

令和5年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
④-1-1 専門科目担当教員の公募の際、応募資格として博士の学位を有することを原則とする。 ④-1-2 専門科目を担当する本学の教職員のうち、博士号を持たない者に学位を取得させるための取組を推進する。	④-1-1 今年度公募を実施した専門科目教員公募3件中2件について、博士の学位を有する者を応募資格とした。もう1件については、公募分野の人材不足のため、博士の学位を有するまたは、博士の学位を任期中に取得見込みであることを応募資格とした。 ④-1-2 先輩教員(メンター)による新採用教員を支援する制度を活用した。博士の学位を持たない者については、面談を行い、必要に応じて業務負担軽減を行った。	◎:既に達成している	
② 社会人向け生涯教育(リカレント)事業をはじめ、高専と連携企業間の教育と研究、さらには大学等との連携を進め、クロスアポイントメント制度導入の支援体制を確立し、実施を推進する。リカレントに関して助教1名を継続する。	② リカレント事業に関して、クロスアポイントメント制度を適用し助教1名を雇用していたが、財源となる補助金の不足により、8月31日付けでクロスアポイントメント協定を解約した。これにより、現在クロスアポイントメント制度適用教員は不在となっている。	×:年度末時点で達成できない	教員人員枠内でのクロスアポイントメントについては、派遣・受入双方において、所属学科の負担増となることが多く、限られた人員の中で制度を運用していくための支援体制整備が引き続き課題として残っている。
④-3 定期的にライフステージに応じた懇談会の開催やアンケートを実施し、職場環境に関する情報共有や改善提案の収集に努める。また、ダイバーシティ事業を活用し、女性教員の働きやすい環境整備を継続的に進める。	③ 懇談会を12月11日および14日に実施し、延べ18名が参加してワークライフバランスについて意見や解決策を提案した。JSTダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)本事業の取組にて相談員の配置(長岡技科大との共同利用)、研究補助員制度、ライフイベント復帰支援制度を構築し、運用している。	◎:既に達成している	
④-4-1 学内における多文化共生(ダイバーシティ)の取組を推進し、様々な文化的背景を持つ多様な人材(例えば外国籍人材など)が公募に応じやすくなるような環境を整える。 ④-4-2 GE事業などで採用した外国人教員を活用し理数系科目や専門科目の英語授業の推進を図る。GE事業で採用した外国人教員を既に常勤教員として採用した(R3年度)ため、当該教員のポテンシャルを活用した配置を検討する。	④-4-1 多文化共生(ダイバーシティ)の取組を推進し、様々な文化的背景を持つ多様な人材が公募に応じやすくなるような環境を整えている。 ④-4-2 GE事業採用の外国人教員が、理数系科目や専門科目等で英語授業の推進を図っている。GE事業採用の外国人教員を常勤として採用(R3年度)し、一般教育科に配置した。	◎:既に達成している	
④-5-1 ダイバーシティ推進室室員を研修会や講演会に積極的に参加させ、学内で報告会を開くなどして情報を共有する。 ④-5-2 ダイバーシティ推進室主催の講演会を開催し、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発を図る。	④-5-1 長岡技術科学大学ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)シンポジウム(11月29日)、女性のための管理職セミナー(2月20日)に出席した。また、機構本部主催の女性教員管理職育成研修(3月21日)、ダイバーシティ講演会(3月22日)にも出席した。 ④-5-2 JSTダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)本事業の取組にてダイバーシティ事業シンポジウム(11月29日)に開催した。	◎:既に達成している	④-5-1 学内で研修会等が多く開催されており、報告会を入れ込むタイミングに苦慮している。
⑤-1 多様な人材育成を図るための各種研修を計画・実施すると共に、国立大学や高等専門学校間の人事交流も計画的に実施する。	⑤-1 校内での集合研修の参加者が少ないことから、オンデマンドによるFD・SD研修を企画し、12月から2月にかけて実施した。 人事交流については、事務職員の長岡技術科学大学との交流を実施中である。	◎:既に達成している	
(2)人員に関する指標 常勤職員の能力向上のための取組を推進することで、業務の一層の効率化・省力化を行う。	(2) 常勤職員の能力向上のための取組として、機構本部主催の初任職員研修会へ3名、新潟県内国立大学法人等新採用職員研修に2名、新潟県内国立大学法人等中堅職員研修に2名の常勤職員が参加した。この他、担当業務別の研修を常勤職員が受講した。 校内予算で第二種衛生管理者の資格取得に係る費用補助を行い、1名が資格取得に至った。	◎:既に達成している	

長岡工業高等専門学校 令和5年度 年度計画実績報告

令和5年度 年度計画 (高専名:長岡工業高等専門学校)	進捗	達成状況	課題
8. 3 情報セキュリティについて 8.3-1 校内システムの情報セキュリティ対策について、情報セキュリティ監査の結果を踏まえ、引き続き改善を行う。 8.3-2 教職員の情報セキュリティ意識向上のための啓発活動を実施する。 8.3-3 教職員に対し、情報セキュリティインシデントの予防および被害拡大を防ぐための研修を実施する。	8.3-1 校内システムの情報セキュリティ対策について、情報セキュリティ監査の結果を踏まえ、長岡工業高等専門学校情報機器取扱ガイドラインの一部改正等の改善を行った。 8.3-2 総務課や総合情報処理センターを通じて、高専機構CSIRT情報セキュリティ関連情報、【KOSEN-CSIRT】動画マガジンの発行のお知らせ、長期休業前の緊急時に備えた体制、本校の情報セキュリティ等についての情報提供を電子メール、グループウェアの掲示板を通じて行った。 8.3-3 2/8から2/29の間でセキュリティ研修を実施した。研修受講率が65%であり、昨年度の35%から向上した。	◎:既に達成している	
8. 4 内部統制の充実・強化 該当なし		該当なし	